



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社あさくま

上場取引所 東

コード番号 7678 URL <http://www.asakuma.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 横田 優

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 西尾 すみ子

TEL 052-800-7781

四半期報告書提出予定日 2019年11月12日

配当支払開始予定日 2019年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	4,678		275		287		174	
2019年3月期第2四半期								

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 174百万円 (%) 2019年3月期第2四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	34.84	34.55
2019年3月期第2四半期		

(注) 2019年3月期第2四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第2四半期の数値及び2020年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	5,175	4,042	78.1
2019年3月期	4,414	3,195	72.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 4,042百万円 2019年3月期 3,195百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期					
2020年3月期		10.00			
2020年3月期(予想)				10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,063	6.5	837	31.7	861	26.8	535	33.4	105.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	5,295,420 株	2019年3月期	4,710,420 株
期末自己株式数	2020年3月期2Q	株	2019年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	5,006,568 株	2019年3月期2Q	4,710,420 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予想情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の設備投資が人手不足や働き方改革を背景とした省力化投資や、老朽化した設備の更新、新技術の活用のための研究開発投資など、構造的要因がもたらす需要の強さに支えられ、増加基調が続いており、それに伴い緩やかな景気回復が持続しております。しかしながら、10月より消費税改正による個人消費の影響、また、長引く米中貿易摩擦問題や海外景気の減速等による世界経済の不確実性により、依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、とりわけレストラン業態（洋風）売上高は、7月は長引いた梅雨が客数に影響し、前年同月比93.7%と振るわず、8月は有利な曜日周りにもかかわらず前年同月比100.4%と伸び悩みました。9月は前年同月比100.4%と前年とほぼ同水準で推移しました（一般社団法人日本フードサービス協会調べ）。雇用人員は、やや底打ち感はあるものの人手不足感が解消されず、外食業界においても人材を如何に確保することが当面の課題となっております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「お客様に食を通じて感動を提案するエンターテインメントレストラン」という不変的な考えの中で、ステーキハウスとしての品質とお値打ちのある商品を提供してまいりました。あさくま創業からの人気商品である定番創作料理「ヒレ肉とホタテをベーコンで巻いたあさくまステーキ」とさらにブラッシュアップした「サーロインと赤身をベーコンで巻いたあさくまステーキ」の両方を「あさくま上場記念フェア」として販売した結果、近年のフェアメニューの中で比較しても高い販売数を記録し、大好評を頂きました。

また、6月のメニュー改訂において、同業他社が食材の高騰を背景とした値上げが相次ぐ中、人気商品である「あさくまハンバーグ」を平日限定で値下げした結果、販売数が大幅に伸びました。

設備投資面では、当社が2019年7月に直営店「ステーキのあさくま磐田店（静岡県）」、9月に直営店「ステーキのあさくま藤枝店（静岡県）」の新規出店を行い、また、8月に株式会社あさくまサクセッションより営業譲受した「ステーキのあさくま大泉学園店（東京都）」をオープンしました。よって、当第2四半期連結会計期間末現在における当社の店舗数は、直営店「ステーキのあさくま」63店舗、「やっぱりあさくま」1店舗の64店舗となり、FC店6店舗を加えて70店舗となりました。連結子会社の株式会社あさくまサクセッションの直営店舗数は8月に「スラバヤ調布店」は閉店しましたが、「ファーマーズガーデン」4店舗、「モツ焼きエビス参」8店舗、「オランダ坂珈琲邸」4店舗、インドネシア料理「スラバヤ」2店舗の18店舗となり、この結果、当社グループの総店舗数は88店舗（FC店6店舗含む）となりました。

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高が4,678,713千円、営業利益が275,455千円、経常利益が287,992千円、親会社株主に帰属する四半期純利益が174,426千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて591,676千円増加し、3,324,423千円となりました。主な要因は現金及び預金で612,255千円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて169,105千円増加し、1,850,806千円となりました。主な要因は有形固定資産で95,799千円増加し、差入保証金で37,458千円増加し、投資その他の資産その他で43,959千円増加したことによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて760,781千円増加し、5,175,230千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて103,900千円減少し、1,026,206千円となりました。主な要因は買掛金で71,742千円減少し、未払法人税等で18,157千円増加し、その他で51,863千円減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて17,506千円増加し、106,717千円となりました。これは資産除去債務で20,506千円増加し、その他で3,000千円減少によるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて86,394千円減少し、1,132,923千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて847,176千円増加し、4,042,306千円となりました。主な要因は資本金及び資本剰余金でそれぞれ336,375千円増加し、利益剰余金で174,426千円増加したことによります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は2,940,511千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果、得られた資金は182,381千円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益292,146千円、減価償却費77,874千円、売上債権の減少72,673千円、仕入債務の減少71,742千円、法人税等を85,728千円支払ったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果、使用した資金は240,203千円となりました。これは主に、新規出店及び改装等に伴う有形固定資産による支出148,615千円、建設協力金の支払による支出51,469千円、差入保証金の差入による支出45,068千円を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果、得られた資金は670,077千円となりました。これは主に、株式の発行による収入672,750千円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月27日付「東京証券取引所JASDAQへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想及び配当予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,328,255	2,940,511
売掛金	279,867	207,193
原材料及び貯蔵品	58,969	75,450
その他	66,585	102,048
貸倒引当金	△930	△780
流動資産合計	2,732,746	3,324,423
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	809,199	846,295
その他(純額)	283,644	342,348
有形固定資産合計	1,092,844	1,188,643
無形固定資産		
のれん	27,191	18,521
その他	8,832	9,390
無形固定資産合計	36,023	27,911
投資その他の資産		
差入保証金	498,446	535,904
その他	56,721	100,681
貸倒引当金	△2,335	△2,335
投資その他の資産合計	552,832	634,250
固定資産合計	1,681,701	1,850,806
資産合計	4,414,448	5,175,230

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	587,330	515,588
未払法人税等	108,742	126,899
賞与引当金	24,000	25,547
その他	410,033	358,170
流動負債合計	1,130,106	1,026,206
固定負債		
資産除去債務	62,510	83,017
その他	26,700	23,700
固定負債合計	89,210	106,717
負債合計	1,219,317	1,132,923
純資産の部		
株主資本		
資本金	515,000	851,375
資本剰余金	592,071	928,446
利益剰余金	2,088,058	2,262,484
株主資本合計	3,195,130	4,042,306
純資産合計	3,195,130	4,042,306
負債純資産合計	4,414,448	5,175,230

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	4,678,713
売上原価	1,855,901
売上総利益	2,822,811
販売費及び一般管理費	2,547,355
営業利益	275,455
営業外収益	
受取利息	91
協賛金収入	12,847
その他	1,224
営業外収益合計	14,163
営業外費用	
和解金	1,000
その他	626
営業外費用合計	1,626
経常利益	287,992
特別利益	
投資有価証券売却益	5,999
特別利益合計	5,999
特別損失	
店舗閉鎖損失	1,846
特別損失合計	1,846
税金等調整前四半期純利益	292,146
法人税、住民税及び事業税	112,196
法人税等調整額	5,523
法人税等合計	117,720
四半期純利益	174,426
親会社株主に帰属する四半期純利益	174,426

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	174,426
その他の包括利益	
その他の包括利益合計	—
四半期包括利益	174,426
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	174,426

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	292,146
減価償却費	77,874
のれん償却額	8,669
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△150
受取利息及び受取配当金	△91
売上債権の増減額(△は増加)	72,673
たな卸資産の増減額(△は増加)	△16,481
仕入債務の増減額(△は減少)	△71,742
投資有価証券売却損益(△は益)	△5,999
未払消費税等の増減額(△は減少)	△14,285
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,547
店舗閉鎖損失	1,846
その他	△77,989
小計	268,018
利息及び配当金の受取額	91
法人税等の支払額	△85,728
営業活動によるキャッシュ・フロー	182,381
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△148,615
差入保証金の差入による支出	△45,068
建設協力金の支払による支出	△51,469
投資有価証券の売却による収入	6,000
無形固定資産の取得による支出	△1,000
差入保証金の回収による収入	1,039
預り保証金の返還による支出	△4,500
預り保証金の受入による収入	1,500
その他	1,910
投資活動によるキャッシュ・フロー	△240,203
財務活動によるキャッシュ・フロー	
株式の発行による収入	672,750
リース債務の返済による支出	△2,672
財務活動によるキャッシュ・フロー	670,077
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	612,255
現金及び現金同等物の期首残高	2,328,255
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,940,511

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

株主資本の著しい変動

当社は、2019年6月27日に東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード) 市場に上場いたしました。上場にあたり、2019年6月26日を払込期日とする公募(ブックビルディング方式による募集)による新株式の発行500,000株により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ287,500千円増加しております。

また、2019年7月26日を払込期日とする第三者割当増資(オーバーアロットメントによる売出に関連した第三者割当)による新株式85,000株の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ48,875千円増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末における資本金は851,375千円、資本剰余金が928,446千円となっております。

(セグメント情報等)

当社グループの事業セグメントは、飲食事業のみの単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。